

5-7 分子科学研究所所長招へい会議（日本学術会議／日本化学会）

分子科学研究所 所長招へい会議は、我が国の学術の姿、研究力強化、大学及び共同研究機関の変容と変革、大学院教育戦略・国際化、科学政策・評価などについて産官学の意見・考えを基に多角的統括的に討議することを目的に、2001年からはほぼ1年に1回の頻度で開催されている。日本学術会議 化学委員会、日本化学会 戦略企画委員会と分子科学研究所の共同主催として開催され、日本学術会議 化学委員会の主要活動の一つに位置づけられている。分子科学研究所は運営事務局として参画する。

ここ10年ほどは初夏の頃に本会議を開催しており、2023年度は、「次世代型元素戦略を考える」というタイトルで、化学分野における重要課題の一つである「元素戦略」について議論した。元素戦略は、資源の枯渇・偏在リスク、産出国による資源の取り込みなどの危機感から、我が国の化学分野を中心に2004年にその重要性、必要性が世界に先駆けて提唱された。その後、文科省、JST、経産省を中心とした幾つかのプロジェクトを経て、2012年から文科省「元素戦略プロジェクト（研究拠点形成型）」がスタートし、2022年3月に終了した。その活動においては、磁性材料、触媒・電池材料、電子材料、構造材料の4拠点を中心に、減量、代替、循環、規制、新機能の5つのキーワードのもと、幾つかの革新的材料の創製に成功してきた。今後は多様な元素の高度利用、新機能創成、元素の再循環という元素戦略の基本理念に立ち返り、「元素戦略」をさらに発展させる必要がある。今回は3名の講師を招き、これまでの元素戦略の成果を総括するとともに、さらなる発展の可能性について議論した。

なお、2023年度は、引き続きオンラインと現地開催のハイブリッド形式で開催し、約126名の参加者があった。

開催テーマ：「次世代型元素戦略を考える」

開催日時：2023年6月15日（木） 13:10～16:50

プログラム：

開会挨拶 渡辺芳人（分子科学研究所 所長）

趣旨説明 茶谷直人（大阪大学 名誉教授）

講演

「新概念「元素科学」から国家基盤「元素戦略」へ——創成期20年の成果と今後への期待——」

玉尾皓平（豊田理化学研究所 所長、京都大学 名誉教授）

「元素戦略2.0～全元素の活用と循環に向けて」

依光英樹（京都大学 教授）

「今求められる大学発イノベーションと元素戦略」

坂本修一（内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長補）

総合討論

司会：所 千晴（早稲田大学 教授）

主催：日本学術会議 化学委員会、

大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 分子科学研究所、

公益社団法人 日本化学会 戦略企画委員会

運営事務局：分子科学研究所（山本浩史 教授）